

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	シニアクラブ活動助成事業	担当課	介護福祉課	
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち	計画期間	年度～
	施策	高齢者福祉の推進	種別	法定+任意
	基本事業	生きがいつくりの機会と社会参加の促進	市民協働	共催
予算科目コード	01-030103-02 補助	根拠法令・条例等	老人福祉法, 老人クラブ活動等事業実施要綱, 老人クラブ等事業運営要綱, 守谷市シニアクラブ助成事業補助金交付要綱	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>昭和37年老人福祉法制定に伴い創設された事業である。市民が高齢期で過ごす時間に生きがいを持ち安心して楽しく充実した生活を送ることが求められている。シニアクラブは地域を基盤とする高齢者の自主的な組織であり、国の老人クラブ活動等事業実施要綱に基づき単位シニアクラブ、市シニアクラブ連合会及び県老連と連携を図るとともにシニアクラブ等に対する支援に努め、必要に応じて助言指導を行うものとする。</p>	<p>市では、市シニアクラブ連合会及び単位シニアクラブへの補助金支給・各種スポーツ大会・文化交流会・役員会・会長会議・研修会・その他高齢者が生きがいや健康づくり事業などの企画等を支援する。</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>市シニアクラブ連合会及び単位シニアクラブの活動をより一層活性化し、高齢者の生きがいや健康づくりを推進する。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>仕事や趣味、スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。地域活動などに参加する高齢者を増やす。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<p>①シニアクラブ会員数が増加しない。 ②新規シニアクラブが発足されない。</p>	<p>5月 元気わくわくスポーツ大会【市主催】 9月 茨城県老人クラブ大会【県主催】 9月 文化交流会（健康マージャン大会）【連合会主催】 10月 茨城県ねりんスポーツ大会【県主催】 10月 シニアスポーツ大会【市主催】 1月 詐欺被害防止対策研修会【連合会主催】 2月 視察研修会【連合会主催】 3月 文化交流会（健康マージャン大会）【連合会主催】</p>
改善内容（課題解決に向けた解決策）	<p>随時 役員会、単位シニアクラブ会長会議 他課主催の各種研修会 茨城県老人クラブ連合会主催の各種会議 各単位シニアクラブにおける会員増強活動</p>
<p>①会員数を増やすために各種事業終了後、アンケートを実施し、ニーズに合った事業を展開する。 ②新クラブ発足に対する助言・指導及び啓発活動 その他として、 ・市主催事業の企画・開催（元気わくわくスポーツ大会、シニアスポーツ大会） ・連合会主催事業の企画・開催・援助（視察研修会、詐欺被害防止対策研修会） ・連合会のクラブから企画された事業に対する助言・援助（健康マージャン大会）</p>	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<p>■増加 □維持 □削減</p>	<p>シニアクラブの会員の増加や新規シニアクラブが設立されると、助成金が増額となる。</p>

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度の取組（評価、課題への対応）
<p>高齢消費者見守りサポーター養成講座を開催し、詐欺被害・消費者トラブルの情報提供や消費者被害の相談に応じて関係機関に繋げる役割としてのサポーターを育成した。（受講者数：58名）</p> <p>文化交流会「健康麻雀大会」をシニアクラブ会員が主体の実行委員会による企画・運営により、年2回実施した。（参加者数：220名）</p> <p>視察研修については、シニアクラブ役員会において企画・検討し、防災施設において、日常生活に役立つ災害体験学習を実施した。（参加者数：49名）</p> <p>シニアスポーツ大会の実施種目については、シニアクラブ役員会に</p>	<p>高齢消費者見守りサポーター養成講座では、過去に同講座を受講した方を中心として、市内の消費者被害を実例に、犯罪手口及び防止のポイントを学習した。（受講者数：37名）</p> <p>第5回健康麻雀大会を参加全クラブで組織する実行委員会の運営により、9月に開催。なお、3月の第6回大会は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止とした。（参加者数：112名）</p> <p>視察研修は水害対策の見識を深めるため、首都圏外郭放水路及び開宿城博物館を視察した。（参加者数：39名）</p> <p>常総運動公園体育館においてシニアスポーツ大会を開催した。（参加者数：283名）</p>

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
シニアクラブ会員数（人）	820.00	956.00	987.00	1,050.00	1,100.00
スポーツ大会参加者数（人）	614.00	593.00	600.00	0.00	650.00
成果の動向（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	各単位クラブにおける地域での勧誘活動等により、会員数は引続き増加傾向。健康麻雀大会等における、会員による自主運営も進捗し、会員相互の交流が図られている。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	新規クラブ設立の支援や既存クラブでの声掛け等により、会員数を増加させることで、シニアクラブ連合会及び単位シニアクラブの活動をより活性化し、高齢者の生きがいや健康づくりを推進する。			

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	2,478	2,419	2,445	2,887	2,887
	国・県支出金	454	520	478	809	809
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	2,024	1,407	0	0	0
	一般財源	0	492	1,967	2,078	2,078
正職員人工数（時間数）		560.00	873.00	1,070.00	0.00	0.00
正職員人件費		2,296	3,645	4,390	0	0
トータルコスト		4,774	6,064	6,835	2,887	2,887

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	敬老祝金支給事業	担当課	介護福祉課	
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち	計画期間	昭和43年度～
	施策	高齢者福祉の推進	種別	任意的事務
	基本事業	生きがいづくりの機会と社会参加の促進	市民協働	
予算科目コード	01-030103-06 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
老人福祉法第5条の規定において、老人週間（9月15日～21日）において、敬老意識の高揚と高齢福祉に対する理解を促すことが推奨されている。	高齢者に心から敬意を表し長寿をたたえるため、人生の節目にあたる年齢時に祝金を支給する。 (対象年齢・金額) 88・99歳：5,000円 100歳以上：10,000円
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
高齢の節目を迎えた方々に、長寿の喜びを感じていただき、生きがいをもって生活ができる。	
(参考) 基本事業の目指す姿	
仕事や趣味、スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。地域活動などに参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
これまでに支給対象者の基準（77歳廃止）や支給金額を見直してきたが、高齢者数は増加が見込まれ、それに伴い財政負担が増加する。	高齢者数の推移や社会情勢等を注視し、随時見直すこととする。 (参考) ・H27：550人／2,795千円（77歳を対象に含む） ・H28：204人／1,120千円（以後、77歳を対象に含まず） ・H29：213人／1,160千円 ・H30：228人／1,255千円 ・R1：232人／1,295千円
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
長寿を祝福することを目的とした事業であり、当面は現在の対象者及び1人当たりの支給金額を維持する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	支給対象者数が増加するため、コストも増加が見込まれる。

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度の取組（評価、課題への対応）
支給方法は、単に贈呈するだけでなく、安否確認や見守りといった効果も期待できる民生委員による手渡しが適当と判断した。今年度も88歳・99歳・100歳以上の方に祝金を支給した。（100歳の方は、市長からの贈呈） 88歳：189人 99歳：16人 100歳：11人 101歳以上：12人 合計：228人	支給方法は、単に贈呈するだけでなく、安否確認や見守りといった効果も期待できる民生委員による手渡しが適当と判断した。今年度も88歳・99歳・100歳以上の方に祝金を支給した。（100歳の方は、市長からの贈呈） 88歳：180人 99歳：25人 100歳：11人 101歳以上：16人 合計：232人

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
支給人数（人）	549.00	228.00	232.00	305.00	320.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	高齢者に敬意を表し長寿をたたえるため、人生の節目に当たる年齢時の祝金支給であり、成果は維持している。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	平均寿命の伸びに伴い支給対象者及び支給額の増加が見込まれるが、長寿を祝福する事業であり、継続していく。			

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	1,161	1,257	1,299	1,783	1,783
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	1,161	0	0	0	0
	一般財源	0	1,257	1,299	1,783	1,783
正職員人工数（時間数）		104.00	59.00	89.00	0.00	0.00
正職員人件費		426	246	365	0	0
トータルコスト		1,587	1,503	1,664	1,783	1,783

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	高年齢者就業機会確保事業	担当課	介護福祉課	
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち	計画期間	平成16年度～
	施策	高齢者福祉の推進	種別	任意的事務
	基本事業	生きがいづくりの機会と社会参加の促進	市民協働	補助事業
予算科目コード	01-030103-08 補助	根拠法令・条例等	高年齢者等の雇用の安定等に関する法律 守谷市高年齢者就業機会確保事業費等補助金交付要綱	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>高年齢者等の雇用の安定等に関する法律において、「国や地方公共団体は、実情に応じて必要な援助、雇用の機会や就業の機会の確保等を図るために必要な施策を推進するように努めなければならない。」と定められている。</p>	<p>シルバー人材センターの事業運営に要する一部費用を補助金として交付する。</p>
<p>目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）</p> <p>シルバー人材センターは、60歳以上の高齢者の労働能力や技能を活用し、地域社会に密着した短期的な就業の機会を提供している。シルバー人材センター事業の円滑な推進により、高年齢者の健康で生きがいのある生活の実現と、地域社会への参加を図る。</p>	
<p>（参考）基本事業の目指す姿</p> <p>仕事や趣味、スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。地域活動などに参加する高齢者を増やす。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<p>シルバー人材センターの健全運営と会員の就業機会確保のために、センターの就業先拡大やサービス拡充が課題となっている。</p> <p>会員の高齢化により顧客の注文を受けられない状況とならないために会員を安定して確保することが課題となっている。</p>	<p>随時 事務局との定期的な意見交換の場を設け、センターの事業状況把握と、運営への助言指導に努めていく。</p>
<p>改善内容（課題解決に向けた解決策）</p> <p>センターのPRに努め、事業利用の促進を図る。 会員獲得のための入会相談会の実施及び未就業会員に対する公平で適正な就業の確保を図る。 就業会員に対する業務中の作業手順をはじめとする安全ルールの徹底、法令順守及びコミュニケーションの向上を図る。</p>	

次年度のコストの方向性（→その理由）

<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	現在のセンター運営状況から、目的達成のためには維持が妥当である。
--	----------------------------------

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度の取組（評価、課題への対応）
高齢者の増加により、様々なニーズが見込まれることから、見守りや生活支援等の事業展開が見込まれる。	対応できる事業は限られているが、利用される方の要望に対し、できる限りの対応に努めるよう指導した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
就業延人数（人）	42,924.00	37,902.00	36,370.00	39,282.00	39,282.00
就業実人数（人）	355.00	306.00	285.00	327.00	327.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input checked="" type="checkbox"/> 低下	事業の円滑な推進により、働く意欲がある高齢者の生きがいの充実と社会参加を図ることができた。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	シルバー人材センターの財政助成や会員増加等への支援により、健全な運営を継続し、引き続き高齢者の生きがいの充実と社会参加を図る。				

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	3,100	3,100	3,100	3,100	3,100
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	3,100	3,100	0	0	0
	一般財源	0	0	3,100	3,100	3,100
正職員人工数（時間数）		15.00	13.00	27.00	0.00	0.00
正職員人件費		62	54	111	0	0
トータルコスト		3,162	3,154	3,211	3,100	3,100

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	サロン活動支援事業	担当課	介護福祉課	
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち	計画期間	平成12年度～
	施策	高齢者福祉の推進	種別	任意の事務
	基本事業	生きがいつくりの機会と社会参加の促進	市民協働	事業協力
予算科目コード	01-030103-13 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成12年度から高齢者の孤立や閉じこもりを防ぐことを目的に、歩いていける場所に介護予防施策の拠点としてサロンを開設するようになった。	地区公民館・集会所・自治会館等を利用して、運営ボランティアにより、健康づくりのための体操・音楽・趣味活動・茶話会等を行い、地域社会での高齢者同士のつながりを深める。 開催数：毎週1回～2回程度 開催時間：午前10時～午後3時（各、サロンによって異なる。） 費用：無料（但し、昼食代や活動における材料費等は自己負担）
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
高齢者の生きがいつくりの機会と社会参加の促進を図ることを目的とする。高齢者が地域において趣味の活動や仲間との交流を行うことにより、生き生きと暮らせる社会を目指している。 サロンの開催場所が増えることで、高齢者の身近なコミュニケーションの場が増え、高齢者が孤立しない状態になることが期待される。	
（参考）基本事業の目指す姿	
仕事や趣味、スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。地域活動などに参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
①令和2年度に掛けて、活動場所が使用不能になる団体あり。 （御所ヶ丘小学校1団体、郷州小学校1団体） ②小規模サロンにおける参加者の固定化、減少 ③運営ボランティアの高齢化、後継者の不在 ④視察研修の費用対効果	（令和元年度） 12～3月 要綱策定 3月 運営ボランティア会議 ・来年度運営方針（要綱を前提とした方針の提示） （令和2年度） 時期未定 ボランティア向け研修 随時 ・予定表や掲示物等の作成支援 ・消耗品やお茶等の購入及び配布 ・まちづくり協議会等との連携
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
①工事担当課と調整し閉鎖期間を限定。また、閉鎖前後の活動に支障のないように配慮する。 ②③開設から長期間経過しているサロンも多く、様々な問題が発生している。まちづくり協議会等との連携も視野に入れ、要綱を策定し、今後の事業運営方針を定める。 ④レクリエーションの要素の強いものではなく、上記の諸課題の解決に繋がる研修として見直しを行う。（運営ボランティア向けに、先進事例やサロン参加者に周知すべき情報を提供する場とする。）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	視察研修の見直し等によりコスト削減をする一方で、通いの場としてのサロン活動の充実、活動の場の拡大を図っていくため、コストは維持の見直し。

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度の取組（評価、課題への対応）
サロンの周知については、市のホームページや、地域包括支援センターによる訪問での紹介、市内へ転入者への紹介等を行い周知を図った。	高齢者のみ世帯、ひとり暮らし高齢者が増加して行く中で、歩いて参加できるサロンが増え、高齢者のコミュニケーションの場となることで、高齢者が孤立しない状態になることから、地域づくりとしてのサロン活動は重要なものである。 市のホームページやチラシ等でサロンの周知を図った。 サロン活動の円滑な運営のため、運営ボランティアとの情報共有会議を開催した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
参加人数（人）	781.00	1,255.00	1,300.00	1,400.00	1,400.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	高齢者の地域における集える場所、交流の場所づくりを支援することで、高齢者の生きがいづくりや介護予防につながっており、成果は向上している。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	高齢者数が増加するなか、サロン活動は気軽に集える地域の場としての必要性が高い。身近な地域にサロンが設置されることが望ましいが、身近なサロンが設立していない地域が見られることや運営ボランティアの高齢化等の課題がある現状である。 サロン活動の継続した運営を図るため、運営ボランティアの地域の人材発掘や育成に努めていく。			

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	1,075	1,179	679	961	950
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	1,075	653	0	0	0
	一般財源	0	526	679	961	950
正職員人工数（時間数）		179.00	313.00	226.00	0.00	0.00
正職員人件費		734	1,307	927	0	0
トータルコスト		1,809	2,486	1,606	961	950

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	地区敬老行事助成事業	担当課	介護福祉課	
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち	計画期間	平成29年度～
	施策	高齢者福祉の推進	種別	任意の事務
	基本事業	生きがいづくりの機会と社会参加の促進	市民協働	補助事業
予算科目コード	01-030103-20 単独	根拠法令・条例等	守谷市地区敬老行事助成金交付要綱	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>「老人週間（9/15～9/21）において老人の団体その他の者によってその趣旨にふさわしい行事が実施されるよう奨励しなければならない」と老人福祉法第5条で定められている。市では長年にわたり社会に貢献されてきた高齢者の方へ敬意を表すために市主催による敬老会を実施してきたが、平成29年度からは各地区において敬老行事を実施していただくこととし、実施団体へ補助金を交付する事業へと移行した。</p>	<p>地域の方々により地域の実情に応じて、多年にわたり地域の発展に貢献した高齢者（75歳以上）を敬い、その長寿を祝う事業、かつ、高齢者と地域住民との交流を深める事業及び高齢者と異世代との交流を深める事業を実施する団体に対して助成金を交付する。 なお、まちづくり協議会が設立された地区については、まちづくり協議会活動支援交付金により対応する。</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>高齢者を敬い、高齢者と地域とのつながりづくりや世代間交流による絆づくりを形成する。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>仕事や趣味、スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。 地域活動などに参加する高齢者を増やす。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<p>令和元年度は、まちづくり協議会が立ち上がっていない守谷地区5ブロック（A～E）が本事業の対象実施団体となっている。うち4団体から助成金交付申請があり、行事を実施したことにより、地域のつながりづくりや世代間交流を促進できた。一方、Dブロックは申請なく敬老行事実施されなかった。実施のない地域での開催、行事に参加できない敬老対象者への対応が課題である。</p>	<p>8月～ 各地区から助成金交付申請を受付、交付決定 10～11月 各地区において敬老行事実施 11～12月 各地区から実績報告、精算 ～3月 まちづくり協議会の設立状況に応じて、翌年度の対象地域を決定。</p> <p>随時 ・各地区からの実施における相談への対応 ・未実施地域（Dブロック）への実施に向けた支援</p>
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
<p>社会福祉協議会等と連携し、未実施地域への実施に向けた支援を行う。</p>	

次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input checked="" type="checkbox"/> 削減	<p>まちづくり協議会の設立が今後も進む見通しであり、設立された地域は、本事業からまちづくり協議会活動支援事業（市民協働推進課）での対応へ移行するため、コストは削減の見通し。</p>

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度の取組（評価、課題への対応）
<p>各地区において地域福祉計画実行委員会や自治会等の主催により、各地区様々な特色のある敬老行事が開催された。</p> <p>参加者数2,752人（75歳以上977人）</p>	<p>まちづくり協議会が設立されていない守谷地区（A,B,C,Eブロック）において敬老行事を開催した。</p> <p>参加者数849人（75歳以上334人）</p>

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
敬老行事開催団体数	0.00	12.00	4.00	1.00	1.00
75歳以上の参加者数	0.00	978.00	849.00	300.00	300.00
成果の動向（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	各地区で敬老行事を開催することで、高齢者が身近な会場で行事に参加でき、地域の異世代との交流も図れている。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	助成金については、まちづくり協議会が設立された地区に対しては、「まちづくり協議会活動支援交付金」による支援に移行する。			

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	2,620	2,211	811	1,707	1,707
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	2,620	0	811	0	0
	一般財源	0	2,211	0	1,707	1,707
正職員人工数（時間数）		600.00	230.00	34.00	0.00	0.00
正職員人件費		2,460	960	140	0	0
トータルコスト		5,080	3,171	951	1,707	1,707